

## 第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会の参加報告

共通機器部門 放射線管理技術班

宗岡 亜依

### 1. はじめに（目的等）

本大会は日本放射線安全管理学会第18回学術大会と日本保健物理学会第52回研究発表会との合同大会として2回目の開催となった。法令改正に関する情報収集と放射線管理の現状を学ぶために参加した。

### 2. 期間・場所

期間：令和元年12月4日～12月7日

場所：東北大学青葉山新キャンパス青葉山コモンズおよび災害科学国際研究所（仙台市）

### 3. 参加者等

参加人数：大学・研究所・企業等から約300名

### 4. 研修内容

開会式の後に次の2件の招待講演が行われた。講演1・放射線防護分野における原子力規制委員会の取り組み（原子力規制委員 伴信彦氏）、講演2・Practicality, Common Sense and Value for Society (IRPA 会長 Roger Coates 氏)。IRPA15の紹介(KARP 会長 W.Y.Park 氏)があった。その後は各セッションの中から業務に関係する内容を選択して参加した。

12月5日（木）環境放射線（能）1，線量評価2，JRSM 企画（放射線障害予防規程）

12月6日（金）保物企画（放射線安全文化の醸成に関する専門研究会）、ポスター発表、リスコムコミュニケーション、JRSM 学術業績賞の授賞式・記念講演、若手奨励賞の授与式

12月7日（土）保物セッション（水晶体防護）

### 5. まとめと感想

放射線に関連した原子力・医療・化学・工学等の多角的な研究が取り上げられていた。放射線施設の管理に関しては国の立入検査を受けた施設の放射線取扱主任者がその実態に関する報告をしていた。2年前に第1回合同大会が開催されたときに参加したのだがその際に眼の水晶体等価線量限度の引き下げの審議が行われているという話だったがまだ継続中とのことだった。線量限度の検討には多大な時間が必要になることが分かった。

本大会では広島大学（中島研）の留学生の発表を聞くことができた。私達の行っている業務が微力ではあるが学生や研究者の役に立っていると実感できて良かった。今後とも利用者が安全に施設を利用できる環境を整えていきたい。